

第 2 回宇治市公共交通活性化委員会での意見要旨

【第 2 回委員会の内容】

- 1 . 西小倉、槇島、明星町地域からの住民参加、意見交換
- 2 . 実証実験路線の乗降調査(7 月分)について
- 3 . 課題整理と対応策の検討について
- 4 . 西小倉地域アンケート調査(案)について

【意見要旨】

1 . 西小倉、槇島、明星町地域からの住民参加、意見交換
1 - 1 . 西小倉地域に関する意見
<p>意見 1 西小倉地域は、これからバス問題の検討委員会を立ち上げます。4 月から路線が変わり、地域を走る路線がなくなっている。駅に近い人は駅の東側まで歩けばバスが出ておりますが、遠い所は 20 分以上かかる場所もあります。そういったところの人、特にお年寄りや障害者の方は、不満があったようですが、まだそういった声への対応するための組織がなかったので、困るなという程度の意見しか聞いておりません。アンケートの結果をできるだけ早く市に出してもらって、検討委員会を本格的に動かしていこうかと考えております。</p>
<p>意見 2 近鉄小倉駅までの足がないことが一番の問題だと思います。西の端は国道 24 号の所までが西小倉でかなりの広範囲であります。それと西小倉は高齢者が多い。毎年敬老の集いをさせていただくが、70 歳ぐらいの方が 600 ~ 700 人ぐらいおられる。バスは必要でございます。</p>
1 - 2 . 槇島地域に関する意見
<p>意見 3 NPO 法人まきしま絆の会では福祉の視点でバス問題を議論しようとしてきました。その結果、一度アンケートを行おうということになり、井上先生にも 2 度講演をしていただき、そしてこれからの槇島に必要なバスとはどういうものかという議論を、素人ばかりですが進めてきました。また、三重県玉城町へのデマンド式バスや京都の醍醐コミュニティバスがどのような運行をされているかを視察に行きました。今後、アンケートの結果と住民の声を聞きながら、最終的に宇治市にどういった方式で槇島はやりたいという提案をしたいと思っております。お配りしている資料は住民がアンケートで答えた、行きたい主なところでございます。槇島地域では徳洲会病院だけが 2 年後に槇島の中心に移転されてくるので、病院の問題は解決できるが、他はすべて外に出ないといけないのでこれを解決できる交通方式がどうあるべきかを検討しておりますが、ほとんどの方々が自転車などで解決できる問題ではないと考えております。</p>

意見 4 バス路線は4月から3路線あったのが近鉄小倉から近鉄向島までの1路線となりました。新しいバス路線については、槇島の旧24号線沿線の利用者の方々は短時間で近鉄小倉駅、近鉄向島駅に行けるようになったと大変喜ばれている。

しかし、その路線についても1時間に1本の運行のため、増便やできれば夜8時頃まで運行してほしいという意見がある。それからバスが無くなって、特に市営団地のある吹前、紫ヶ丘団地のある南落合地域の高齢者や生活弱者が買い物等の生活に困っておられる。また、槇島小学校の南側にある山城福祉の園という身体障害者の通園施設がありその人も困っておられる。

また、市役所、文化センター、図書館に行くのが大変不便になりました。これら交通弱者のための良い方策が必要ではないかと考えます。経済性の比較もしなければなりません。やはり我々町民が自己解決できる能力を超えたものについては、ぜひ委員会でご審議いただき、我々の地域の足の確保につながるようなことを教えていただき、我々も実行していかなければならないと考えております。

意見 5 それぞれの地域でお困りになっている。運行便数が減って、通院や買い物に行くのが不便になったと。減便だけならまだしも、路線が休廃止されたと、大変だとおっしゃられるんですが、そういう方がたくさんおられるのになぜバスが減便されたり、休廃止されたりするのかということはどう考えておられるかをお伺いしたいのですが。

意見 6 槇島地域の皆様からバスで行きたい目的地を提示いただきました。書かれている所と人数を見ますと、今までバスが運行されていた地域ばかりが網羅されている。近鉄向島から徳洲会病院も運行していましたし、近鉄小倉までも運行していましたし、コーナン・フレンドマートも近くにバス停がありましたし、JR宇治、京阪宇治も行っていました。行っていないのはアルプラザ宇治東店ぐらいで、ほとんど行きたい目的地は前の路線で網羅されていました。でも、利用数は伸びない現状がありました。

槇島は田園風景の広がる公共交通が全くない中で、地域の人はどこまでも歩く習慣があり、歩くことの次は自転車、働きに行く世代は車を利用される。よって槇島地区は複数台数自動車を所有されている率が高い地域となっております。車か、バイクか、自転車でしか用をたせない地域であります。そんな中でバス路線を考えた時に、最初回っていたルートでは利用者が増えないので、ルートを工夫して、要望のあるところを網羅するようにされました。結果目的地まで時間がかかるということが不人気の原因となってしまいました。どういった方法がいいかについては我々も結論は出せておりません。しかし高齢化が進む中で、自動車に乗っている人が、自転車になるかもしれない、自転車に乗っている人が歩いてしか用をたせない時代を迎えるのが目の前なのだから、我々の取り組みの中でも将来を見越して、バス路線を維持しようと、そのためにできるだけ乗ってくださいという取り組みが一つだと思っておりますが、時間がかかると考えます。

1 - 3 . 明星町地域に関する意見

意見 7 昨年の6月から路線バスの休止問題が急浮上しまして、住民の方々にアンケートを実施しました。回収率は7割以上で、ほとんどの方が今乗っていなくても、乗る可能性があるので、何とか存続してほしいということでした。バスの運行を何とか継続したいと活動しております。その中で時刻表を調整しましてJR宇治駅での乗り継ぎ利便性がいい、住民の方のバスが運行してほしい時間帯についてアンケートでお聞きした内容を反映しております。また啓発活動として全戸配布のビラ等を行いまして、最近の結果として(乗降数・収支)徐々に改善されている方向で結果が出ています。住民の方々からは存続させてほしいという考えを是非伝えてほしいとのことです。

意見 8 新しい実証実験路線ですが、明星町線と小倉線を一台で運行しており、ダイヤに制約がある。4月に宇治市から受け取ったダイヤにはこちらの要望が反映されておらず、地域から不満が出ており、今回見直しについて協議しております。特に朝夕は不満はあまりないが、小倉線と競合している、昼間の9時半と13時半に明星町3丁目発の便がほしいということで申し入れをしておりますのでよろしくをお願いします。

10月1日より以下の通りダイヤを見直し、沿線自治会へダイヤ変更についての案内回覧を実施。

(主なダイヤ見直し点)

【明星線】20時台の最終便を13時台に変更。

【小倉線】14時台の近鉄小倉行の便を16時台に変更。

意見 9 いろいろと利用促進の取り組みをされているということですが、他にこういった利用促進の取り組みはされているのでしょうか。全戸にチラシを配布されるといろいろな方が目を通されると思うのですが、何か反応というか、手ごたえを感じられている所はありますか。

掲示板にまちづくり協議会の方が啓発用の掲出物を貼ったりはされていません。是非バスの存続の活動に参加されたいという方も数人現れました。

意見 10 明星町の方では黄檗駅方面について一部休止されておりますが、こちらの方に近い方々は、おそらく不便になったと思われます。そういった声はお聞きになっていませんか。

そういった意見は聞いておりません。羽戸山の方は明星町経由の路線がなくなっても、府道森本経由の黄檗駅までのルートがありますので、その辺で何とかカバーできているのではないかと考えます。

1 - 4 . 各地域に共通する意見

意見 11 それぞれの地域で4月と7月に乗降調査をされて、利用者数は伸びているというお話がございました。ただ伸びたと言っても想定採算ラインからはまだまだということが見受けられます。それぞれ明星町で1日25便、小倉ですと1日8便ということですが、それぞれの時間帯であるとか便による差のわかるデータはないのでしょうか。

(事務局)小倉線につきましては早朝や夕方の通勤・通学時間帯には運行せず、昼間の時間帯、9時前後から、15時前後の間に4往復運行しております。明星町線は1日25便、朝6時台から夜は20時台までの間に均一に25便走っています。やはり通勤の時間帯の利用が多いということと、10時台に駅に向かう、おそらく買い物に行かれると思われる方の利用が多く一つのピークとなっております。あと、夕方16時台に住宅地にお帰りの方のピークがあります。

2 . 実証実験路線の乗降調査(7月分)について

質問・意見はなし

3 . 課題整理と対応策の検討について

意見 12 バスに乗ってもらうにはどのような方法、形を持って行かないと、バスに乗っていただけないかなと考えます。高齢者に乗ってもらいたいなら、高齢者が気楽に乗れるバス、カードシステムの導入など、楽に乗れる何かが必要、1人でも多く乗っていただく工夫が必要ではないかなと考える。西小倉の場合はアンケートの結果次第の部分がありますけど、その前に子供から高齢者までが気楽に乗れる何かを考える必要があると考えます。

意見 13 高齢者への対応ということだと、高槻市の方で調査した結果など見ますと、10時頃に出かけて16時ごろに帰ってくるパターンが非常に多いので、その間にどういう目的で、どこに出かけられるのかといった分析と組み合わせていくのが現実的な形かなと考えます。

ただ、これは、自治体によって、地区によっても違います。いろいろこの委員会でも分析を重ねていく、細かく見ていく必要があると考えます。

意見 14 ICカードが使えるか使えないかが、私としては使いやすさのバロメーターになるのですが、現在はスルッと関西は利用できますが、PITAPA、ICOCAは使えない。JR宇治駅や京阪宇治駅で乗り降りされる方がPITAPA、ICOCAで乗れると良いのではと考えます。導入を考えられているのですか。

京阪宇治バスでは導入しておりませんが、26年度に導入をしたいということで、近畿運輸局の方にも、補助の申請することをお伝えしました。数日前に京都府、京都市にもお話をさせていただいております。関係市町にも負担をお願いするのにまだ総経費が固まっていないため、その中身を精査して、関係市町にお願いに上がって、26年度に向けて進めていきたいと考えております。

意見 15 車を卒業、車に乗らない生活というのが、必要ではないかという意見があったかと思うのですが、例えば明星町のように急な坂があって、自転車がつらいというようなところでは、どのような形でのマネジメントが考えられますか

要はこうなったら乗るではなく、もはやこれからの時代は、今までの40年間のように便利になっていく世の中ではないのです。これまで40年間は便利にしたいという個人の需要に答えるものばかりが出来てきましたが、人口が減少していく中で、集約していかなければならない世の中になっていきます。税収も減少していくので要望してももう無理な時代だという認識から始めないと考えます。

ですから、こうやったら乗るではなくて、私達のライフスタイル自体を変えていこうということを宇治市から始めていかないと、今あるものは永続的に続くものではなく、消える可能性が大いにありうるということが今回の路線バス休廃止でわかりました。このままいくと他の路線バスも消えるかもしれません。要は乗れば残るということはわかっているので、乗らなければいけないのです。1時間に1本だから乗らないではなくて、1時間に1本のバスに合わせて乗るような発想に宇治市の人達が変わっていかないと残りません。実際に残っている地域はそういうことを実践しているから残っているわけで、一番初めに啓発とかではなく、そもそも市民の考え方を転換していきましょうというところからスタートした方がいいのではないかと考えます。

意見 16 バス会社単独でバスを走らせても、乗客がいなければなくなる。

市や京都府、国が補助金を入れても、やはり乗客がいなければなくなるというところで、これから自動車利用を控えてバス利用に移行しなければならないという意見がございましたが、榎島地域の方もおっしゃられたように、醍醐コミュニティバスで成功をおさめられています。全国でコミュニティバスやデマンドで成功されている事例はたくさんあります。

その一方で失敗事例もその倍以上あります。本来なら失敗事例を勉強していけば良いのですが、失敗事例は隠されてしまってなかなか表には出てこない。この成功事例についてもいろいろな形態で運行されております。ただ1つ言えるのは地域の住民の方や商店等を経営されている商業者の方々の理解がある。皆様が、自分たちが支えなければならないと、意識して支えておられるのがすべてコミュニティバスの成功事例となっている。

4 . 西小倉地域アンケート調査(案)について

意見 17 アンケートの冒頭の説明部分なのですが、真ん中のマスキングされている、「今後の生活交通確保に向けた方法を検討する」と書いておられるが、今まで各地区の皆様がおっしゃっておられたように、今後高齢化の進展に伴って生活交通の確保がより重要となってきますというような文章を入れて、そういう意識を持ってアンケートしていただいた方がいいのかなと思います。

(事務局) ご指摘の趣旨の文章を追加させていただきます。

意見 18 アンケートは槇島地域や明星町でも実施されるのか、西小倉だけで実施されるのか。9月6日まで1か月かけて調査をして、もう1か月くらい分析に時間がかかりますよね。西小倉だけのバスへの意向をまとめることは可能かもしれませんが、槇島で実施する時間がないのではないのでしょうか。

(事務局) 明星町と槇島については、昨年度に明星町についてはほぼこれと同じような内容で、槇島町についてはこれでは量が多すぎるとのご意見もございまして、簡略化されて、アンケートを実施されておられます。今後詳細な代替交通を検討する中で、必要とあれば、再度アンケートを取るなどの対応は必要かと考えております。西小倉地域については一度もアンケート調査を行ったことがございませんでしたので、このような形で実施したいと考えております。